

環境豊かな九州のさらなる国際化を

熊本大学長 谷 口 功

はじめに：九州の将来

九州の産業界は東アジアの経済発展を基盤として発展を遂げつつあったが、世界的な経済危機の影響を受けて一転ブレーキがかかり、昨今、次の成長への模索段階にある。九州全体に裾野を広げつつあった北部地域を中心とした自動車産業などはかなり持ち直しつつあるとはいえ、未だ中休み状態である。アジア諸国が、急速に不況を脱しつつあるのに比べて、我が国の回復の速度は極めて遅い。このピンチをチャンスに変えるためにも、改めて、産業構造の再構築を踏まえた取り組みが必要になる。

筆者の地元である熊本県では、半導体産業の集積などを基盤として幅広い産業集積を推進するために、“セミコン”、“ものづくり”、“バイオ”産業等を推進するフォレスト構想（産業集積戦略）が設定されて、これまで地域の産業界を牽引してきた。しかし、今日の世界の動向を踏まえて、次の10年の新しい成長戦略が必要になっている。特に、九州という土地柄もあって、環境関連のソーラー産業振興などを掲げて新規産業の育成の積極的な推進が模索されている。

九州の特徴

この時期に将来を見据えて、今日の九州の特徴を考えてみると、大方の一致するところとして、いくつかのキーワードが浮かび上がる。すなわち、国際化、環境、健康、観光等がそれである。

1) 国際化については、アジアに近い有利な地理的な位置は九州の優位性であり、アジアから世界に繋がる主要な基地としての九州がある。ヒト、モノ、カネの流れがもっと活発化して然るべきである。九州は、我が国のアジア戦略に積極的



に参画する必要がある。

- 2) 環境に関しては、低炭素負荷社会を標榜する新政権が自然を守る「グリーンイノベーション」を基軸とした科学技術の展開による産業育成を掲げ、我が国の世界最高水準の環境技術に注目して、エコ・エネルギー・循環型社会の推進によって世界をリードするとしている。九州地域は、人々の環境意識も極めて高く、良質の水や農産物をはじめとする食料等が豊かであることを強みとしており、幅広い意味での環境ビジネスが展開できる。
- 3) 健康については、命を守る「ライフイノベーション」として、前述のグリーンイノベーションとともに新政権の政策の基軸となっている。健康は、安全・安心社会と高度な医療水準に支えられた九州地域の特徴でもある。
- 4) 観光に関しては、九州には長い歴史や伝統に支えられた多くの歴史的な文化財や貴重資料、さらにはすばらしい自然があり、豊かな地域社会の特徴となっている。1年後に控えた博多から鹿児島までの新幹線の全線開通をはじめとする交通網の整備によって、益々その価値が高めら

れる。国内はもとより、近隣諸国からの観光客をも誘致できるはずである。

これらの要素は、相互に関連して引き立て合うので、豊かな環境を基本とした九州のイメージを形成できる。九州はこれらの特徴を生かして産学官や市民の皆様などが一体となってベクトルを合わせて進むことで、新たな生活圏・文化圏・経済圏として魅力ある地域へと進化し発展できる。

大学の役割

それでは、筆者が属する学としては何が出来るのか、何をすることが必要であろうか。

勿論、知の拠点として、我が国のイノベーションを担う人材育成や新しい科学技術による産業技術開発などを通しての社会貢献が可能なことは言うまでもない。また、特に地方に於いては、大学等の高等教育機関は、その存在自体大きな経済効果をもたらしている。地方大学の地域への経済的な寄与は数百億を遥かに超えて、新規雇用への寄与も数千人以上と試算されている。九州新幹線がそれぞれの地域に及ぼす経済効果が100億余であるのに比べて遥かに大きい。また、確かに、企業の進出にあたって、人材供給や技術的な支援についての地域の教育機関の調査が入念になされることは日常身近に経験している。大学の予算規模を考えても、中堅の市町村の程度を遥かに超える。この経済効果の話は比較的理解され易い。

しかし、学としての重要な視点は、近隣諸国をはじめ世界からの留学生や研究者の受け入れとその活用である。

留学生の効用と活用

周知の通り、街の活性化には若者の存在が不可欠である。九州の少子化の速度は極めて急速で、小中学校の統廃合につづいて、過疎地の高等学校の統合や高専の再編も始まっている。大学も、勿論、例外ではない。ここで、取り組む必要があるのが、国際化である。我が国の大学には、国際的に通用する大学、世界からの留学生が好んで集まる大学が必要である。

産業界の厳しい国際競争と同様、大学も国際競争の中にある。

一方、九州は地理的にも文化的にもアジア諸国に近い地域であるにも関わらず、留学生が多いとは言えない。特に私がいる熊本県は、世界各国からの留学生が700人余りで長崎県の半分程度である。大分県には、留学生が半分を占めるアジア太平洋大学があることもあって、4,000人と他県に比べて多いが、それでも九州全体の留学生数は、東京や関西地域に比べて決して多いとは言えない。一方、本学で数年来実施している夏の短期留学制度を利用して留学した学生は、地域の素晴らしい環境や我が国の文化、人々の親切さ等に触れ、感動して留学に対して高い満足度を示している。

また、我が国の将来を担う日本人の学生たちにとってグローバル化が進んだ社会の中で、卒業後10年、20年経った時の活躍の場は多くの場合、世界に広がっている。次世代を担う学生を育てるという意味において、大学の国際化が必須の課題である所以である。せめて、学生の10人に1人は留学生という国際的な環境の中で、国際感覚を当たり前のこととして身につけることが重要になると考えている。

本学では、このような考えのもと、10,000人の学生に対して300人余りだった留学生をまず500人(現在400人程度までになっている)、さらに将来的には1,000人を目指して取り組んでいる。

アジア諸国と繋ぐ九州の豊かな環境

特にアジア諸国は、環境の悪化が大きな課題となっている。命の源としての水も満足には確保できていない。これらの国がこれから必要とするのは、我が国の進んだ新しい環境技術や環境管理の手法であり、その需要は今後益々大きくなる。これらを学ぼうとする学生や研究者に対して、九州では、真に豊かな環境の中で進んだ現実を見せながら教育ができるのである。大学等の教育機関はもとより、当該環境管理協会等の活動は実地の経験の場としても大きな意味を持っている。

留学生は単に学生として重要であるだけではない。

彼らが九州の素晴らしさを母国に知らせることの副次的な効果は極めて大きい。彼らはまた母国からの観光客に対して、観光案内や通訳としての役割を果たすことなども可能である。彼らはその活用を工夫することによって、観光客を誘致することに一役買うことも可能である。九州地域に留学生が卒業後さらに研修したり働いたりする場所の確保も望まれる。それを可能にする関連産業の育成なども真剣に考えるべきである。九州に於ける環境関連産業はその一つとしての可能性を持っている。

おわりに：国際化の重要性

国際化は、我が国の文化やアイデンティティを大切にすることでもある。また、日本語や日本文化が

理解できる留学生と一緒に育った日本人学生が、10年後、20年後に世界を舞台に活躍する事は、我が国の将来にとっても極めて重要なことである。

我が国の今後の産業や経済の発展を考えると、これからの九州地域は極めて重要な立場になる。東アジアの経済成長を睨んだ我が国の産業の最前線としての重要度は、益々大きくなるはずである。また、豊かな環境、高度な医療水準、安定した土地柄、豊富で質の高い人財などは、人々が集まる文化・環境・教育都市としての九州のこれからの将来性・優位性を示している。これを現実のものとするか否かの鍵を握っているのは教育機関であると考えている。

少子高齢化が進行する中で、広くアジアや世界に目を向けることで、九州の新しい未来が見えてくる。



エナガ



クロツラヘラサギ